

日本語学

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
日本語学概論	日本語史概説	2	菊地 恵太	3	月曜5限
日本語学概論	日本語文法論要理	2	大木 一夫	4	月曜2限
日本語学概論	方言研究	2	中西 太郎	4	月曜5限
日本語学概論	物語の言語学	2	甲田 直美	4	火曜3限
日本語学基礎講読	日本語意味論	2	大木 一夫	3	月曜2限
日本語学基礎講読	古典語講読	2	菊地 恵太	4	火曜2限
日本語学各論	日本語文法研究	2	大木 一夫	5	木曜2限
日本語学各論	言語の多様性と日本の方言(東海地方を中心に)	2	山田 敏弘	5	集中講義
日本語学各論	辞書と文字・表記史	2	菊地 恵太	6	水曜4限
日本語学各論	方言研究の開拓	2	中西 太郎	6	金曜2限
日本語学講読	文献による日本語史研究	2	菊地 恵太	5	水曜4限
日本語学講読	日本語の終助詞	2	大木 一夫	6	木曜2限
日本語学演習	方言調査法	2	中西 太郎	5	水曜2限
日本語学演習	ナラトロジーと語りの実際	2	甲田 直美	6	月曜3限

科目名：日本語学概論

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：菊地 恵太

コード：LB31501, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本語史概説

2・授業の目的と概要：古典文学のような、古代の日本語で書かれた文献を見れば、日本語の姿が現代までに大きく変化していることは明らかであるが、それだけではいつごろから、どのような変化が起こっていたのか分からない。この授業では、古代から現代に至るまでの日本語について、様々な側面からその変遷について概観する。また、その歴史を明らかにするために、どのような文献を用い研究が為されてきたのか、日本語史研究の視点についても解説する。

3. 学習の到達目標：(1) 古代語から現代語に至るまでの変化の概略を理解し、説明できるようになる。
(2) 日本語史研究のために有用な文献資料やその特質を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 ガイダンス（日本語とは）
- 第2回 日本語の起源と系統
- 第3回 日本語史を知るための資料
- 第4回 文字・表記史（1）日本語表記の登場
- 第5回 文字・表記史（2）仮名遣いと発音
- 第6回 文字・表記史（3）近現代の国語施策
- 第7回 音声・音韻史（1）音声学概説
- 第8回 音声・音韻史（2）音声の推定
- 第9回 語彙史（1）古代の語彙
- 第10回 語彙史（2）語彙の近代化
- 第11回 文法史（1）近世・近代の文法研究
- 第12回 文法史（2）古代の文法
- 第13回 文法史（3）文法の近代化
- 第14回 誤用と言語変化
- 第15回 授業のまとめ・補遺、期末試験

※内容は授業の進捗状況によって若干の変更を加える可能性がある。

5. 成績評価方法：小テスト・コメント提出（40％）

期末試験（60％）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない（プリント配布）。参考書は授業内で紹介する。

7. 授業時間外学習：前回の授業の内容について小テストを行うため、毎回復習が必要となる。適宜ノートやメモを取り、復習に役立てること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

小テスト及びコメント提出はオンラインで行う予定。インターネットに接続できる機器（スマートフォン、パソコンなど）を持参すること。

科目名：日本語学概論

曜日・講時：月曜2限

semester：4 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB41201, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本語文法論要理

2・授業の目的と概要：言語はおよそ文という単位をもち、語という単位をもつ。その文や語のもつ構造やその構成の規則を考えていくのが文法論である。ここでは、その文法論について、文法論はなぜそのように考えるのか、その結果、どのような帰結が導かれるのかということを考えていく。対象とする言語は現代日本語を中心とする。

3. 学習の到達目標：(1) 文法論の視点、考え方が説明できるようになる。
(2) 日本語の文法事象について説明できるようになる。
(3) 文法的に考え、その結果について説明できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 「文法」への問い
- 第2回 言語単位をとりだす
- 第3回 文(1)
- 第4回 文(2)
- 第5回 文(3)
- 第6回 述語文の構造(1)
- 第7回 述語文の構造(2)
- 第8回 述語文の構造(3)
- 第9回 語
- 第10回 品詞
- 第11回 活用
- 第12回 文法的時間表現
- 第13回 ムードとモダリティ
- 第14回 終助詞
- 第15回 文末音調、まとめ

5. 成績評価方法：上記の「到達目標」に即して、筆記試験および講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

6. 教科書および参考書：必要な資料・テキストは印刷して、あるいはPDFで配布する。参考文献は講義内で随時提示する。

【主要参考文献】

庵功雄『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第2版』スリーエーネットワーク 2012
益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法 第3版』くろしお出版 2024
ウェイリー, L. J. 『言語類型論入門 言語の普遍性と多様性』1997 (大堀壽夫他訳、岩波書店 2006)

7. 授業時間外学習：前回の講義内容およびそれに関わる事項を確認し、その要点を身につけて次時にのぞむこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

講義時にスマートフォン、タブレット、ノート型コンピュータなどのインターネットに接続できるデバイスを使用する(いずれでもかまわない)。

Google Classroomに登録すること。

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部である。

科目名：日本語学概論

曜日・講時：月曜 5 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB41501, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：方言研究

2・授業の目的と概要： 方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は日本語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。音韻、アクセント、語彙、文法など基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面、現代社会における方言の位置づけもテーマとする。

講義を通して、同一言語内における言語変種とその要因及び言語が使用される社会における言語使用の実態や、言語行動を支える社会的・文化的慣習についての理解をも深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：(1)方言に対する関心を高め、研究の対象として考えることができる。

(2)方言学について概括的な知識（言語接触による言語変種の発生など）を身につける。

(3)方言に対する学びを通して日本語の多様性・多様化について理解する。

(4)地域方言を含む日本語使用の実態について理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：方言の区画、方言の東西差

第 3 回：周権論的分布、逆周権論的分布

第 4 回：いろいろな分布、グロットグラム

第 5 回：発音の地域差、アクセントの地域差

第 6 回：イントネーションの地域差、アスペクトの地域差

第 7 回：条件表現の地域差、方言のオノマトペ

第 8 回：あいさつの地域差、話の進め方の地域差

第 9 回：コミュニケーションの意識の地域差、待遇表現の地域差

第 10 回：共通語化・標準語化、方言と共通語の使い分け

第 11 回：伝統方言の現在、中間方言の発生

第 12 回：新しい方言の発生と広がり、近代化によることばの地域差

第 13 回：方言の社会的位置づけの変遷、地域資源としての「方言」

第 14 回：ヴァーチャル方言と方言ステレオタイプ、社会現象としての「方言」

第 15 回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

5. 成績評価方法： 期末試験(70%)・授業への参加状況（課題などへの取り組みを含む）(30%)

6. 教科書および参考書：木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ(2013)『方言学入門』三省堂、ISBN:9784385363936

7. 授業時間外学習：授業の前にテキストの授業範囲に目を通し、疑問点、具体例などを洗い出しておくこと。また、授業終了後には、テキストの内容を復習するとともに、当該授業のトピックについて身の回りの人々の言葉を観察し、体験的・具体的に理解するように努めること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

出席回数 2/3 未満の者は単位を認定しない。

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。「A」以上の成績を履修者全体の 30%程度になるようにする。

科目名：日本語学概論

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB42301, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：物語の言語学

2・授業の目的と概要：・物語を具体的に考えながら、言語学とその隣接領域について、一定の知識を得る。
・言語は、ジャンル、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、広がりを見せる。本講義では物語とことばの関係を扱う。物語で使用されることば、物語と他のジャンルとの違い、語られることばの特徴など、「物語」をキーワードに日本語を分析する事例と分析方法について講義する。

3. 学習の到達目標：物語を具体的に考えながら、言語学とその隣接領域について、一定の知識を得る。

- (1) 物語論をとおして我々が日常使用している言語を観察・記述できるようになる。
- (2) 会話分析の基本的技能を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 物語と人間一言語分析の領域—
2. 『星の王子さま』に見る世界の言語—比較・対照言語学—
3. 物語と談話の法則—文法論—
4. 音と耳から考える物語—音声学—
5. 物語の翻訳—意味論—
6. 物語と時間—談話分析—
7. 構造主義と神話研究—音韻論—
8. 物語の技巧—物語論—
9. 物語の共通性—物語の種類論—
10. ドラマ・アニメの構造とシナリオ術—シナリオ術—
11. マンガと視点現象—マンガ学—
12. 雑談と「もの」語り—会話分析—
13. ケアの物語—語用論—
14. コミュニケーション・ツールとしての物語—コミュニケーション論—
15. 研究の方法

5. 成績評価方法：出席 30%、提出物 50%、期末レポート 20%

6. 教科書および参考書：『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』甲田直美（2024）ひつじ書房
『大学で学ぶアカデミック・ライティングの教科書—〈書く力〉を引き出す問い 109』甲田直美（2025）ひつじ書房

7. 授業時間外学習：各回の授業内容をもとにコメントと発展課題を提出する。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部である。

科目名：日本語学基礎講読

曜日・講時：月曜 2 限

Semester：3 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB31203, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本語意味論

2・授業の目的と概要：言語にとって意味というものは欠かすことのできない側面であるが、それをとらえるのは思いのほかむずかしい。そこで、ここでは語の意味にしぼって、それがどのようなものであるのかを検討する。検討にあたっては、現代日本語の類義語をとりあげ、具体的な例文にもとづき類義語の差異を分析し、また、議論しながら、語の意味について考えていくことにする。

3. 学習の到達目標：(1) 言語における意味、意味分析の方法の概略が説明できるようになる。
(2) 現代日本語の具体的な例文にもとづき、語の意味を分析することができるようになる。
(3) 言語調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 日本語研究の技法
3. 語の意味とは何か
4. 意味分析の方法①
5. 意味分析の方法②
6. 意味分析の実践①
7. 意味分析の実践②
8. 意味分析の実践③
9. 意味分析の実践④
10. 意味分析の実践⑤
11. 意味分析の実践⑥
12. 意味分析の実践⑦
13. 意味分析の実践⑧
14. 意味分析の実践⑨
15. 意味分析の実践⑩、まとめ

5. 成績評価方法：参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

6. 教科書および参考書：必要な資料・テキストは印刷して、あるいは PDF で配布する。参考文献は講義内で随時提示する。

7. 授業時間外学習：意味および意味研究の方法にかかわる文献資料を読んで参加する。

意味分析の方法について検討する。

類義語の意味についての調査をおこなう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本語学基礎講読

曜日・講時：火曜2限

semester：4 単位数：2

担当教員：菊地 恵太

コード：LB42202, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古典語講読

2・授業の目的と概要：『徒然草』を日本語史的観点から丁寧に読む。テキスト範囲から、日本語史上問題となる点を取り上げ、その問題点について調査・発表（グループまたは個人）を行ってもらい。調査結果の発表及び質疑を通して、変体仮名の読解、文献の調査方法など、日本語史研究の基礎的知識を身につける。

3. 学習の到達目標：(1) 資料の特性、研究上の有用性を理解する。

(2) 変体仮名の読み方を習得するとともに、辞書等の記述を利用し、古典資料を適切に読解することができる。

(3) 文献調査を通して適切にデータの収集・分析を行い、研究発表を行うことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ガイダンス

第2回 資料の読み方

第3回 日本語史調査の方法

第4～8回 資料の読解

第9～15回 調査結果の発表

※発表日程は授業の進捗状況や受講者数によって変更となる可能性がある。

5. 成績評価方法：小テストとして、テキスト読解のチェックを行う。

小テスト・課題 (20%) 発表の参加 (30%) レポート (50%)

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない（プリント配布）。参考書は授業内で紹介する。

7. 授業時間外学習：テキスト読解の予習が毎回必須となる。調査や発表準備にはさらに時間を要するため、前もって早めに取り組むこと。ノートやメモを積極的に取り、発表やレポートに役立てること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業中の検索用端末（スマートフォン、パソコン等）の利用は可とする。

科目名：日本語学各論

曜日・講時：木曜2限

Semester：5 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB54201, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本語文法研究

2・授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、日本語の品詞。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

3. 学習の到達目標：(1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。
(2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。
(3) 文法的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：文法研究とは何か
- 第3回：先行研究の分析について
- 第4回：テーマ概説
- 第5回：研究史の分析(1)
- 第6回：研究史の分析(2)
- 第7回：研究史の分析(3)
- 第8回：研究史の分析(4)
- 第9回：文法論的分析(1)
- 第10回：文法論的分析(2)
- 第11回：文法論的分析(3)
- 第12回：文法論的分析(4)
- 第13回：文法論的分析(5)
- 第14回：文法論的分析(6)
- 第15回：まとめ

5. 成績評価方法：参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

6. 教科書および参考書：必要な資料・テキストは印刷して、あるいはPDFで配布する。参考文献は講義内で随時提示する。

7. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。
(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

履修時はGoogle Classroomに登録すること。

科目名：日本語学各論

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：菊地 恵太

コード：LB63406, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：辞書と文字・表記史

2・授業の目的と概要：日本では古代から様々な形態の辞書が編纂され、それらは日本語史、特に文字・表記史研究の上で非常に有用である。この授業では、日本における辞書（字書）の歴史や古辞書の利用方法、またその問題点について概説し、その上で現在までにどのような文字・表記史研究が行われてきたか取り上げたい。受講者にも文字・表記史に関する研究論文を要約・紹介してもらい、最終的には、日本語文字・表記史に関する問題を自身で設定し、調査の上レポートとしてまとめてもらう。

3. 学習の到達目標：(1) 日本における辞書の歴史、利用方法を理解する。

(2) 日本語の文字・表記史の現状、研究史を理解する。

(3) 日本語の文字・表記に関わる問題点を取り上げ、調査・分析を行うことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ガイダンス

第2回 中国字書概説

第3回 日本の古辞書概説 (1)

第4回 日本の古辞書概説 (2)

第5回 漢字字体概説 (1)

第6回 漢字字体概説 (2)

第7回 仮名遣い史概説

第8回 仮名字体史概説

第9～12回 研究論文紹介

第13～15回 レポート構想発表

※日程は授業の進捗状況や受講者数によって変更となる可能性がある。

5. 成績評価方法：授業の参加・コメント提出 (40%) 期末レポート (60%)

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない (プリント配布)。参考書は授業内で紹介する。

7. 授業時間外学習：ノートやメモを積極的に取り、復習やレポートの構想に役立てること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業中の検索用端末 (スマートフォン、パソコン等) の利用は可とする。

科目名：日本語学各論

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：中西 太郎

コード：LB65208, **科目ナンバリング：**LHM-LIN305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：方言研究の開拓

2・授業の目的と概要： これまでの方言研究では、ことばの運用の地域差の解明に資する資料の蓄積とそれを用いた研究がまだ十分とは言えなかった。また、それらも含めたことばの総合的な地域差の研究成果をもとに、研究成果を社会に還元する取り組みにもさらなる展開の余地があると言える。

近年ではことばの運用の地域差解明に向けた理論と研究視座が発展し、ことばの地域差の研究成果を応用する実践的方言学も展開している。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な言語運用の地域差の記述、分析、応用を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言語行動や感動詞、談話などを取り上げる。

3. 学習の到達目標：(1) 講義でテーマにする研究領域の知見と研究動向を理解し説明できる

(2) 講義でテーマにする研究領域の分析的確にできる

(3) ことばの研究成果を応用する実践的な取り組みができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(1)

第3回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(2)

第4回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(1)

第5回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(1)

第6回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(2)

第7回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(3)

第8回：研究テーマ中間発表と議論

第9回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(2)

第10回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(3)

第11回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果報告(1)

第12回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果報告(2)

第13回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果報告(3)

第14回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果報告(4)

第15回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

5. 成績評価方法：レポート (50%)、発表内容 (30%)、授業への参加状況 (課題などへの取り組みを含む) (20%)

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

7. 授業時間外学習：(1) 言語行動や感動詞、談話について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

(2) 研究発表のための分析、資料作成などの準備を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

出席回数 2/3 未満の者は単位を認定しない。

出席率が高くても、研究活動に十分に協力できない学生には単位を認めない場合がある。

科目名：日本語学各論

曜日・講時：集中講義

semester：5 **単位数：**2

担当教員：山田 敏弘

コード：LB98806, **科目ナンバリング：**LHM-LIN305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：言語の多様性と日本の方言（東海地方を中心に）

2・授業の目的と概要：日本語をはじめとした様々な言語を比較しながら、日本の方言の特徴を考える。特に、講義者の地元である東海地方の方言の実例を用いながら、言語とは何か、方言とは何かを考え、これらの言語・方言に見られる多様に存在する音声、語彙、文法的特徴を順に考察していく。

3. 学習の到達目標：(1) 東西方言の接点と言われる東海地方の方言について、音声、語彙、文法的特徴に関すること知見を得る。

(2) 個別言語にとらわれない広い視野から、様々な言語・方言に存在する諸特徴を説明できるようになる。

(3) 衰退する方言をどのようにして活性化し、地域らしさを保持していくかを考察する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- ① 言語の多様性に関する前提の確認：「言語」とは何か、「方言」とは何か
- ② 東海地方の方言に関する概説：東西方言の接点との立ち位置から
- ③ 東海地方の方言の音声・音韻 1：母音、子音、連母音の融合の現在
- ④ 東海地方の方言の音声・音韻 2：韻律特徴（アクセント・イントネーション）
- ⑤ 東海地方の方言の文法 1：形態論（活用）：一段動詞のラ行五段活用化
- ⑥ 東海地方の方言の文法 2：形態論（活用）：その他の活用の交替
- ⑦ 東海地方の方言の文法 3：統語論（否定）：「～やせぬ」由来否定形の強意の薄まり
- ⑧ 東海地方の方言の文法 4：統語論（アスペクト）：岐阜県の「～よる」を中心に
- ⑨ 東海地方の方言の語彙 1：伝統的語彙の残存と衰退 1
- ⑩ 東海地方の方言の語彙 2：伝統的語彙の残存と衰退 2
- ⑪ 東海地方の方言の語彙 3：新方言
- ⑫ 東海地方の方言の語彙 4：学校の方言
- ⑬ 東海地方の方言の談話特徴 1：昔話資料に見られる文法の特例
- ⑭ 東海地方の方言の談話特徴 2：昔話資料に見られる新奇な語彙
- ⑮ 方言・地域言語の将来

5. 成績評価方法：授業内課題 50%、レポート 50%

6. 教科書および参考書：プリントを配布し、授業内ではスライド資料で補足する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業で感じた疑問点について、次回、授業で発表できるよう調べておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本語学講読

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：菊地 恵太

コード：LB53403, 科目ナンバリング：LHM-LIN313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文献による日本語史研究

2・授業の目的と概要：『三宝絵』（三宝絵詞）は平安時代に成立した仏教説話集として知られるが、この授業では平仮名本の『三宝絵』（名古屋市博物館蔵・開戸本）の読解を進める。片仮名本（観智院本）・変体漢文本（前田本）との差異に注目しつつ、本文を丁寧に読み進め、日本語史上問題となる点について取り上げる。さらに、本文中で問題となる語について調査・発表を行い、文献による日本語史の分析方法を習得する。

3. 学習の到達目標：(1) 資料の特性、研究上の有用性を理解する。

(2) 変体仮名の読み方を習得するとともに、辞書等の記述を利用し、古典資料を適切に読解することができる。

(3) 文献調査を通して適切にデータの収集・分析を行い、研究発表を行うことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ガイダンス

第2回 資料の読み方

第3回 文献調査の方法

第4・5回 資料の読解

第6～15回 研究発表

※発表日程は授業の進捗状況や受講者数によって変更となる可能性がある。

5. 成績評価方法：小テストとして、テキスト（変体仮名）を読めているかどうかチェックを行う。

小テスト（20%） 発表の参加（30%） レポート（50%）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない（プリント配布）。参考書は授業内で紹介する。

7. 授業時間外学習：テキスト読解の予習が毎回必須となる。調査や発表準備にはさらに時間を要するため、前もって早めに取り組むこと。ノートやメモを積極的に取り、発表やレポートに役立てること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業中の検索用端末（スマートフォン、パソコン等）の利用は可とする。

科目名：日本語学講読

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：大木 一夫

コード：LB64209, **科目ナンバリング：**LHM-LIN313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語の終助詞

2・授業の目的と概要：日本語には終助詞と呼ばれる言語要素がある。では、この終助詞とはどのようなものなのか。これまでの終助詞にかかわる日本語研究をとりあげ、それらを丁寧に読みすすめながら、日本語における終助詞というものの文法的性格やその機能について考えていく。そこでは、具体的なデータにもとづいて考え、議論するという姿勢を大切にしたい。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 日本語研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。
(2) 日本語研究における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。
(3) 具体的な例文にもとづき日本語学的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 日本語研究における終助詞の概略
3. 日本語学のテキストを読むということ
4. 日本語終助詞論のテキストを読む(1)
5. 日本語終助詞論のテキストを読む(2)
6. 日本語終助詞論のテキストを読む(3)
7. 日本語終助詞論のテキストを読む(4)
8. 日本語終助詞論のテキストを読む(5)
9. 日本語終助詞論のテキストを読む(6)
10. 日本語終助詞論のテキストを読む(7)
11. 日本語終助詞論のテキストを読む(8)
12. 日本語終助詞論のテキストを読む(9)
13. 日本語終助詞論のテキストを読む(10)
14. 日本語終助詞論のテキストを読む(11)
15. 日本語終助詞論のテキストを読む(12)、まとめ

5. 成績評価方法：参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

6. 教科書および参考書：必要な資料・テキストは印刷して、あるいはPDF で配布する。参考文献は講義内で随時提示する。

7. 授業時間外学習：日本語の修飾にかかわる文献資料を読んで参加する。論述の問題点を探す。
修飾語についての調査をおこなう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

Google Classroom に登録すること。

科目名：日本語学演習

曜日・講時：水曜 2 限

Semester：5 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LB53202, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：方言調査法

2・授業の目的と概要： 方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。なお、コロナウィルス感染症などの影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

3. 学習の到達目標： (1) 方言調査の調査内容・方法を立案・検討できる
(2) 方言調査の実施計画を立てて方言調査を実践できる
(3) 方言調査の結果を報告し、議論を踏まえて次の研究課題を見つけることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明
2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説
3. 方言的特徴の調べ方についての解説 (1)
4. 方言的特徴の調べ方についての解説 (2)
5. 方言的特徴の調べ方についての解説 (3)
6. 調査地の方言的特徴の把握 (1)
7. 調査地の方言的特徴の把握 (2)
8. 調査地の方言的特徴の把握 (3)
9. 調査地の方言的特徴の把握 (4)
10. 調査票の作り方についての解説
11. 模擬調査と録音機の使い方
12. 調査票の検討(1)
13. 調査票の検討(2)
14. テーマ最終報告 (1)、調査実施準備
15. テーマ最終報告 (2)、調査の振り返り、授業のまとめ

※授業の進み具合や履修者の習熟度、調査予定地の事情、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

5. 成績評価方法： レポート(50%)・授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(30%)・発表内容(20%)

6. 教科書および参考書： 教科書は使用しない。参考書は適宜授業で指示する。

7. 授業時間外学習： (1) 調査テーマの設定のための学習と議論、報告、報告のための準備を行う。
(2) 現地調査に参加し、学んだ調査手法を実践する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

出席回数 2/3 未満の者は単位を認定しない。

出席率が高くても、方言調査の準備などに十分に協力できない学生には単位を認めない場合がある。

方言調査に参加するのに一定の費用が必要になる。

科目名：日本語学演習

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB61306, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ナラトロジーと語りの実際

2・授業の目的と概要：物語の分析理論が、実際の語りや物語作品のことばの分析にどのように適用できるかを演習をとおして体験する。物語にはフィクションとしての物語作品の他に、日常会話における語り（ナラティブ）も含む。

3. 学習の到達目標：物語の理論をもとに語りや物語作品を具体的に分析する。
語りのデータを会話分析による記述法から扱う。
語りのデータベースを作成する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の概要
2. 物語の分析理論 1
3. 物語の分析理論 2
4. 語りの分析
5. ナラティブ分析の現在
6. 物語作品の分析 1
7. 物語作品の分析 2
8. 物語作品の分析 3
9. 会話データの分析 1
10. 会話データの分析 2
11. 語りの分析 1
12. 語りの分析 2
13. 研究発表の実際 1
14. 研究発表の実際 2
15. 研究の公表へ向けて

5. 成績評価方法：授業参加および提出物による。

6. 教科書および参考書：『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』甲田直美(2024)ひつじ書房
『大学で学ぶアカデミック・ライティングの教科書—書く力』を引き出す問い109』甲田直美(2025)ひつじ書房

7. 授業時間外学習：扱う言語資料（文献および言語データ）を事前に読んでおく。語りのデータベースを作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：